

	<p>『門松製作秘話』</p> <p>～ 津田工業(株) ～</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------

毎年クリスマス前後になると、新年を迎える立派な門松が、わが社の本社（刈谷）と豊川工場正面玄関にお目見えする。今回のトピックスは、この門松製作秘話（？）の紹介である。

この門松が最初に飾られたのは、本社が平成 20 年から、豊川工場が平成元年からとなる。当初、豊川工場に勤務する鈴木基夫氏他 3 名が共同製作していたが、その後近藤輝夫氏が加わり、平成 12 年に退職してからは近藤氏が一人で手掛けている。近藤氏は、営業部と豊川工場に在籍中からお得意様（トヨタ殿・デンソー殿等）の門松を拝見してカメラにおさめ、デザインを考える資料としていた。そのファイルが何冊にも及んでおり、今では近藤氏の頭にあるデザインデータで門松デザインはすぐ決まるそうだ。（今では少なくなったが、近藤氏がまだ若かりし頃、門松を家で作る事は豊川地域の年末恒例行事だった。）

さて、門松の要となる竹・松は取り引きしている山から調達している近藤氏だが、近年の悩みどころは、1 つの山に 20 もの罝を仕掛けているにも関わらず、その罝にかかる前に猪が竹の子を掘って食べてしまうことだ。竹になる前に食べられては堪らないので、こちらが捕らえて市へ連絡すると、猪は解体されて食用となる。このお肉がとっても美味しいので、「猪の肉いらないか？」と言われた社員もいたとか。これからの季節は牡丹鍋で身体が暖まることだろう。

その他の悩みは、「松枯れ」といって、綺麗な緑色になる前に枯れてしまうことだそう。

門松製作の大変なところは、ノコギリ等で竹を切ること・竹を縛る前にその縄で飾り玉を前面に見えるように出すことである。

このような困難があっても、近藤氏の経験によるダイナミックな動作と繊細な腕により立派な門松は完成する。飾られた門松は現役社員が毎日水をやり、松の内まで青々と水々しくどっしりと神様の依り所として、わが社の正面玄関に鎮座される。

この原稿を書いている今頃（12 月 15 日）近藤氏の製作も終盤に入り、軽トラで師走の神様の如く、走りまわっていることだろう。

では最後に、迎え来る 2012 年が全ての人に福の神舞い降りる良き年になるようお願いしつつ。

<刈谷本社門松>

